

令和7年度東部地区ステップ・アップ研修 実施報告

1 目的

ステップ・アップ研修は、初任者研修を踏まえるとともに、1年間の教員としての経験をもとに現職教員研修の一環として、実践的指導力と使命感及び幅広い知見等のより一層の向上を目的とする。

2 期日

第1日（7月25日）オンライン型研修
第2日（8月5日）参集型研修

3 受講者数

246人

小学校等教諭 165人
中学校等教諭 81人

4 日程

＜第1日＞ 令和7年7月25日（金）【全日：所属校研修（オンライン）】

・講話「小中学校教員のこころ—今 取り組むべきこと—」

東部教育事務所 所 長 越 晃宏

・講義1「東部の教育を担う教員として」

東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当
主席指導主事 堀越 敦

・講義2「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

東部教育事務所総務・人事・学事担当
主席管理主事 塩崎 陽子

・講義3「生徒指導に関する現状と課題」

東部教育事務所 指 導 主 事 加藤 雄大

・講義4「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営の充実」

東部教育事務所 指 導 主 事 宮本 祐樹

・講義5「道徳教育の充実 ～道徳科の授業づくり～」

東部教育事務所 指 導 主 事 富山 めぐみ

・講義6「よい授業のポイント（授業づくりについて）」

東部教育事務所 指 導 主 事 赤塚 みゆき

・講義7「先輩に学ぶ」

久喜市立栗橋西中学校 教 諭 金盛 里奈

・受講者代表「教員生活2年目を迎えて」

八潮市立大瀬小学校 教 諭 鈴木 優希乃

＜第2日＞ 令和7年8月5日（火）【全日：越谷市立越ヶ谷小学校（参集）】

・協議1「第1日の講義動画を振り返って」

・協議2「生徒指導に関する課題と指導の工夫」

・協議3「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営における指導の工夫」

・協議4「道徳授業における指導方法の工夫」

・協議5「学習指導における実践と今後の課題」

【協議の主な流れ】

1 協議のテーマ説明

3 発表共有（全体にて）

2 協議（各班にて）

4 指導講評

第1日

講話

小中学校教員のこころ—今 取り組むべきこと—

東部教育事務所 所長 越 晃宏

- 1 教師としての情熱を忘れずに
- 2 教師としての心得
- 3 自分を大切に



【受講者感想】

- ◎教師としての情熱をもち、子供たちを育ていくためには、自分の原点である「子供たちのよさや可能性を伸ばす」ということに立ち返ることが大切であると感じました。授業や校務においても「子供のため」ということを忘れず、どのような工夫をすることで子供の「学びたい」を引き出し、学校が安心して過ごせる場になるかを考えて、行動していきたいです。
- ◎『なぜ教員になったのだろう』を振り返るという言葉にはっとさせられました。自分がどんな教師になりたいのか、どんな生徒を育てたいのか、多忙な業務で忘れていたことでした。私は「子供たちのサポートができる教員になる」というモットーを掲げています。サポートとはときに引っ張り、ときに支えてあげることだが、私にはそんなことができていだろうか、と振り返るきっかけになりました。自分の行動、言動を振り返り、サポートできる教員になれるよう、精進していきたいです。

講義 1

「東部の教育を担う教員として」

東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当
主席指導主事 堀越 敦

- 1 東部の教育を担う教員として
 - (1) ステップ・アップしていますか
 - (2) 信頼される教員となるために
 - (3) 児童生徒理解と保護者理解
- 2 ステップ・アップ研修に臨むにあたって
 - (1) 「学び続ける教師」としての姿勢
 - (2) 縦・横のつながりを大切に
- 3 教師という仕事の魅力



【受講者感想】

- ◎「東部の教育を担う教員」として、信頼される教員となること、学び続ける教員であることが大切だと学びました。また、教員という仕事の魅力の中で「クリエイティブだからこそ楽しい」ということが印象的でした。子供の心に火を灯すことができるように、先輩方からも学びながら、授業力を向上していきたいと考えました。
- ◎「学び続ける教員」として2年目からも自ら考え、動き、成長し続けていきたいです。また、いつまでも学び続ける気持ちは忘れずにもっていたいと思いました。そのためにも、縦と横のつながりを大切にしていきたいです。学級経営や授業づくりの方法、児童との関わり方について、自学年以外もたくさんの先生方の姿を見て、いろいろな方法で自分の学級に取り入れていきたいです。自分が

目指したい先輩の姿を見て行動したいです。また、同期がたくさんいるので、一緒に頑張れる仲間など縦と横のつながりを大切にしていきたいです。

講義 2

「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

東部教育事務所総務・人事・学事担当

主席管理主事 塩崎 陽子

- 1 私たちの身分
- 2 教員としての心得
- 3 教員としての服務

【受講者感想】

- ◎組織の一員として、学校内外において常に教員としての自覚をもち続けることを再確認しました。不祥事は、学校全体の信頼も失ってしまうこと、個人の問題ではなく、学校全体の問題となってしまうことを常に頭に入れて行動していきたいと思います。一つ一つの行動に責任を持ち、子供たち一人一人に向き合っていきたいと思います。
- ◎私は、教師として相応しくない振る舞いをしないように日頃から気をつけているつもりだと思っていました。しかし、動画内の「保護者からの信頼」という言葉を聞いて、少しドキッとしました。それは、自分は常に様々な人から見られている立場であるという自覚が足りない部分があったからだと思います。自分が「教師」である以上、「教師」への信頼を失わないように、その覚悟を持って、勤務時間はもちろん、勤務時間外にも振る舞いには気を付けたいと思いました。

2 教員としての心得

〔埼玉県が求める教師像〕

- (1) 健康で、明るく、人間性豊かな教師
- (2) 教育に対する情熱と使命感をもつ教師
- (3) 広い教養と専門的な知識・技能を備えた教師



講義 3

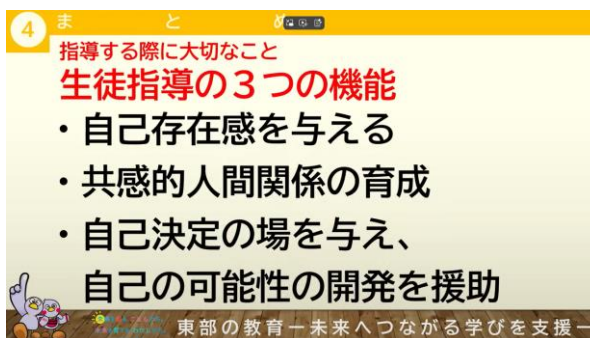
「生徒指導に関する現状と課題」

東部教育事務所 指導主事 加藤 雄大

- 1 生徒指導に関する現状
- 2 生徒指導とは
- 3 演習（生徒指導ハンドブック I's 2019 より）

【受講者感想】

- ◎生徒指導は、問題が起きてからの対応だけでなく、日頃からの関係づくりが大切だと改めて感じました。不登校やいじめなどの課題が増える中で、私は普段から子供と遊んだり、給食を共にしたりしながら、話しやすい関係づくりを意識しています。演習では一人で抱え込まず、相談することの大切さを実感しました。これからもチームで子供を支えていきたいです。
- ◎今年から生徒指導担当なので、とても勉強になりました。私にとっての生徒指導とは「子供をよい方向へ導く」ことだと思っています。だから、すべての教育活動において何が生徒の成長につながるのかを考えて行動するようにしています。また、一人で対応するのではなく組織で対応する大切さについても改めて考えることができました。



講義 4

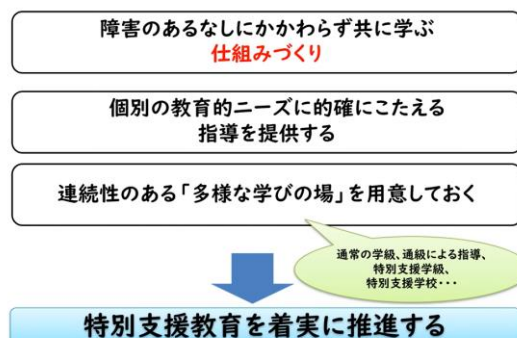
「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営の充実」

東部教育事務所 指導主事 宮本 祐樹

- 1 みんなが分かる授業づくり
- 2 特別支援教育に関する情報提供
 - (1) インクルーシブ教育システムについて
 - (2) 合理的配慮の提供について
 - (3) 交流及び共同学習について

【受講者感想】

- ◎自分の学級に属している特別支援学級の児童を思い浮かべながら講義を受けました。どうして困難であるかその原因を考え、配慮をしていくことが大切であると学びました。困った児童ではなく、困っている児童であるという意識を忘れずに、2学期からも関わっていきたいと感じました。
- ◎特別支援教育の視点は、特別な支援を要する児童生徒に限らず、すべての子供に有効であるという考え方が印象的でした。一人一人の特性や背景を理解し、適切な配慮をすることで、安心して学べる環境が整うと感じました。特に集中力に課題のある生徒への支援について、表面的な行動だけを見て判断するのではなく、「なぜ集中できないのか」「何に困っているのか」といった背景に目を向ける重要性を学びました。その子がやるべきことを把握できているか、見通しが立っているかなど、支援の工夫が求められます。日々の授業や学級経営にこの視点を生かし、誰一人取り残さない教育を実現していきたいと思います。



講義 5

「道徳教育の充実 ～道徳科の授業づくり～」

東部教育事務所 指導主事 富山 めぐみ

- 1 道徳科において知っておくべきこと
- 2 柔軟な道徳授業をつくるために
- 3 道徳科における評価

【受講者感想】

- ◎道徳教育を充実させるためには、児童に問題意識を持たせる導入を考えることや、多面的・多角的に考えさせることが大切であると分かりました。自分の道徳の授業を振り返ると、発問をさらに児童に考えさせるものにできるのではないかと考えました。教材研究を引き続き行っていきたいです。
- ◎自分の道徳の授業を振り返り、子供が考え、議論する授業があまり行えていなかったと反省しました。子供たちが問題意識をもち、自分との関わりで考える主体的な学びと、多面的・多角的に考える協働的な学びを踏まえ、自らの生き方について納得するまで考える能動的な学びができるよう、道徳授業を行っていきたいです。そのためにも、自分が道徳的価値について考え、どのような葛藤があるかを意識して授業をつくっていきます。



講義 6

「よい授業のポイント（授業づくりについて）」

東部教育事務所 指導主事 赤塚 みゆき

- 1 よい授業づくりのために
 - (1) 授業のゴールを明確にする
 - (2) 児童・生徒の実態を知る
 - (3) 単元全体を考える
 - (4) 自分の授業を振り返る

- 2 埼玉県教員として
「教員としての誇りを大切に」

1 「よい授業」づくりのために

- ①授業のゴールを明確に！
- ②児童・生徒の実態を知る！
- ③単元全体を考える！
- ④自分の授業を振り返る！

【受講者感想】

- ◎私は「授業で勝負」ということがとても印象に残りました。子供の分かった時の笑顔や、悩んでいるときの真剣な顔、わからなくて悔しそうな顔、そのどれもが自分の授業から引き出されているものだと考えるととてもワクワクしますし、大切にしていきたいと思っています。今日学んだよい授業づくりのポイントを押さえて授業を作っていきたいです。いつも反省ばかりの授業ですが、しっかり反省をし、次に生かせる授業をしていきたいです。
- ◎年間1015時間、国語科の授業でいうと140時間もの時間、授業を聞いている生徒。その授業が分からないものであれば、不登校にもつながってしまうかもしれない。そんな考えればすぐにわかるようなことに危機感をもっていなかった自分を恥じた講義でした。しかし、逆によりよい授業を作るために邁進しようと固く決心させてくれた講義でもありました。生徒の実態から単元全体の見通しを立てながら授業づくりはしていたのですが、時間がないと自分に言い訳をしながら自身の授業の振り返りをしていなかったことを猛省しました。今後は振り返りまでをセットに、今後さらに授業をよりよいものにしていきます。教師は授業で勝負するという言葉を胸に自己研鑽に努めていきます。

講義 7

「先輩に学ぶ」

久喜市立栗橋西中学校 教諭 金盛 里奈

- 1 学級経営で大切にしてきたこと
- 2 授業づくりで意識してきたこと
～学級会を例として～
- 3 教員としての資質能力の向上のために
行ってきたこと

学級経営で大切にしてきたこと



生徒が作った
学級のオリジナル
キャラクター

★学級開きを大切に

- 1 笑顔
- 2 目指す姿
- 3 自主的

★自己存在感 自己肯定感 規律

- 1 安心できる居場所
- 2 成功体験
- 3 あいさつ、姿勢

【受講者感想】

- ◎学び続けていくことが、教師として大切なことであると改めて感じました。子供主体で動き、いろいろなアイデアを出しながら、クラスで決めた目標を達成しようと協力する子供の姿に感動しました。そのように、子供が学びを積み重ねながら考えられるのも、先生が資質・能力を高めていたからなのだと思います。特別活動で学んだことを学級経営に生かしたり、研修に参加したりしながら、子供にとって居心地のよい、支え合いながら認め合える学級をつくっていききたいです。
- ◎学級経営や特別活動をより充実したものにするための工夫や、教師としての資質向上のために取り組まれてきたことを知ることができました。私も今年度から初担任となり、学級経営の難しさを痛感しています。やることが多い日は笑顔を忘れてしまう瞬間もあり、クラスの雰囲気も暗くなった

感じがしました。だからこそ生徒の前では常に元気で笑顔の耐えない教員でありたいと改めて感じました。

受講者代表発表

「教員生活 2 年目を迎えて」

八潮市立大瀬小学校 教諭 鈴木 優希乃

1 1 年目の成果について

- (1) 学級経営
- (2) 授業
- (3) 先生方との関わり

2 1 年目の成果を踏まえて取り組みたいこと

- (1) 学級
- (2) 授業
- (3) 校務分掌

1 年間の成果を踏まえて取り組みたいこと

2 授業

(1) 学び合いのある授業

- ・深い学びのための話合いや環境づくり

(2) 算数の授業に力を入れる

- ・授業を見て学ぶ
- ・児童が思考する授業を作る

【受講者感想】

- ◎同じ 2 年目の先生のお話を聞く中で、自分の 1 年間や 1 学期を振り返ることができる機会になったと感じました。学級経営や先生方との関わり、授業などの実践から共感すること、勉強になることが多かったです。私自身もこれまでの課題や成果を自分で整理しながら、これからにつなげていきたいと改めて思いました。
- ◎丁寧な学級経営をされていて、とても勉強になりました。環境整備において見本を示したり、ToDo リストを作成して必要なときに掲示したりする方法は、2 学期以降実践していきたいと感じました。今年度については、自分も高学年をもっているため共感できる部分が多かったです。自分たちで考えて動くよう伝えることを自分もやっていきたいと感じました。

第 2 日

協議 1 「第 1 日の講義動画を振り返って」

- ◎グループのメンバーと意見を共有して、「学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない」という言葉が心に残っている人が多かったです。私もその言葉が 1 番心に残っていました。生徒や時代などは変化していきます。だから、それに対応するために教師は学び続けなくてはならないと思います。1 年目のときよりも、できることや知識を増やし、常に学び続けていきます。
- ◎初心を忘れずに教育にあたることの大切さを改めて実感しました。私にとっての初心とは、「生徒たちに自信をつけさせたい」という思いです。この原点に立ち返ることで、自分の教育観を見つめ直す機会となりました。また、2 年目の教員として、受け身にならず、自ら仕事を取りに行くという積極的な姿勢を大切にしたいと感じています。

協議 2 「生徒指導に関する課題と指導の工夫」

- ◎具体的な生徒指導案件について、具体的な経験を用いながら深い議論を行うことができたと感じます。また、全体の指導でいただいた「生徒指導では空振りは OK だが、見逃しは NG」という言葉がとても印象に残っています。何か違和感があったときに、躊躇せずに一步踏み出すことが、生徒の安心・安全な学校生活へとつながっていくのだと改めて認識しました。また、何かあったときは一人で抱え込まず、チームとして対応できるような縦と横のつながりを今のうちから構築しておきたいです。

- ◎一人で抱え込まず、周りの先生方へ報、連、相を忘れずに丁寧に生徒指導していきたいと思いました。また、不登校児童を出さないよう未然に防ぐにはどうしたらよいかなど同期と情報交換したことがとても参考になりました。事前指導を大切にして、児童が学校生活を安心して送れるような環境づくりを目指したいと思います。児童が困っているときには、気持ちに寄り添った指導を心掛け児童の居場所づくりに努めていきます。



協議 3 「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営における指導の工夫」

- ◎困った生徒ではなく、困っている生徒に対しての教育的ニーズを考え直していかなければいけないと思いました。私一人で考えるのではなく、学年職員や管理職、カウンセラーの先生方とも連携して、手立てを講じていく必要があると感じました。また、授業においてより明確な見通しを立ててあげることで授業に取り組む姿勢に変化がみられると思うので2学期に実践していきたいです。
- ◎ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについて、教室環境や、指示の出し方など、協議の中で実践を知ることができました。改めて自分の担当するクラスや授業は工夫があるのか振り返りながら、授業研究に生かしていきたいと思います。



協議 4 「道徳授業における指導方法の工夫」

- ◎発問の工夫や導入の工夫について考えることができました。どうしたら生徒に自分事として捉え考えさせることができるかなど悩みながらも多くの意見を出し合いながら話し合いを行うことができ、非常に有意義な時間になりました。
- ◎道徳的価値の本質を考えた発問は難しいなとグループでも話し合いました。何をどのように学ぶかは、まず教師が深く学習内容や道徳的価値について理解することが大切だと思いました。また、子供の発言を拾い、それを広げ深めていけるような発問ができるようにしていきたいです。説話だけでなく、余韻をもたせる方法として、歌や詩、子供の体験談なども取り入れていきたいです。

協議 5 「学習指導における実践と今後の課題」

- ◎できた！わかった！と子供が思える授業がよりよい授業かなと思いました。様々な先生方の取組を聞いて勉強になりました。教え込むのではなく、自ら学ぶことができるように教材研究を怠らずに、主体的・対話的で深い学びができるようにしていきたいです。ICTの活用は見届けまで行わないと効果が薄れてしまうような気がするので、見届けまでしっかりとおこないたいです。今日の研修で学んだこと、同期から受けた刺激を今後に生かしていきたいです。
- ◎個別最適な学びと協働的な学びをどうしても別のものとして考えてしまうことが多くあったので、その二つをどう効果的につなげていくかを授業の中で考えることがとても難しいと感じました。ただ子供に活動としてやらせるだけではなく、なぜそれをするのか、それをする事で今後どう生きていくのかなど、目的を確立させた上で日々授業に取り組んでいこうと思います。

※【受講者感想】は、標記の都合上、文末等を変更しています。

6 受講者のアンケート結果

質問項目	回答率 (%)				平均
	4	3	2	1	
1 研修に意欲的に参加することができた	87.8	12.1	0.1	0.0	3.9
2 研修の内容は、実践的で役立つものだった	79.8	20.1	0.1	0.0	3.8
3 研修に参加して疑問や不安を解消できた	56.8	40.5	2.7	0.0	3.5
4 研修で学んだことを今後に生かしたいと思う	67.2	30.8	2.0	0.0	3.7
5 研修に満足している	75.5	23.3	1.2	0.0	3.7

* 4 (あてはまる) ←————→ 1 (あてはまらない)

7 成果

- ・一昨年度から、第1日がオンライン型、第2日が参集型の研修形態となっている。第1日の動画による講義内容を踏まえ、第2日の協議を行う形式である。第1日に全員が同じ動画を視聴し、自分の意見をもって第2日の協議に臨むことで、受講者が目的や視点をそろえて協議を行うことができた。
- ・第1日のオンラインによる講義では、全講義が教員としての資質・能力を向上させるための重要な内容であり、2年次の教員にとって、昨年度の取組(教育活動)を見直す契機となり、同時に今後の充実した実践へと示唆を与えるものであった。
- ・第2日の参集型の研修では、班別協議(中学校では教科別による班を編成)を実施し、講義動画で学んだことや考えたことを基に、協議を行った。同期の仲間と様々な協議を行ったことにより、今後の自身の教育活動に向けた意欲の向上や、研修内容の理解の深まりが見られた。
- ・第2日の協議後は、各協議会場をオンラインでつなぎ、第1日に動画で講義を行った指導主事が受講者の協議を踏まえて事後指導を行った。そのことにより、第1日の動画の内容、第2日の協議内容について、受講者の理解がより深まった。

8 課題

- ・欠席者は、第1日12名、第2日6名であった。特に、第1日の主な理由は、林間学校や部活動県大会の児童生徒引率による欠席であった。今後は、実施日の検討が必要である。
- ・協議題の柱や協議時間等、研修内容の充実を検討し、研修の質的な充実を更に図っていく。また、第2日の参集型研修では、暑さに備えた対策が不可欠である。会場の選定や環境の整備について、今後も引き続き検討していく必要がある。